
神山 備の取扱説明書

神山 備

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神山 備の取扱説明書

【Nコード】

N9245X

【作者名】

神山 備

【あらすじ】

某所で綴っていた「こうやまたすくの作り方」を含めて、つらつらと私自身の執筆その他のアホなまでの拘りだとかを書いていきます。

現在、移行中でサイトと、もう一箇所掲載されております。そのうち、オリジナルも登場する予定です。

たすくの脳内はいつもアフレコ状態

皆さんがどんな書き方をされているのかは分かりませんが、私の場合はまずキャラクターを設定します。

年齢・体格・容姿・環境：それらのものを設定したら、舞台を用意し、キャラクターをそこに放置します。

そしてその“役者”が動くのを実況するという手法で書いているんです。

この際に重要なのはキャラの声。

アニオタたすくの頭の中にはとんでもない数の声優様の声がインプットされており、そのときのキャラに応じてそのキャラの声として聞こえてくるんです。

ちなみに「切り取られた青空」の板倉加奈子は川澄綾子さん（のだめカンタービレの野田恵）綿貫亮平は小西克幸さん（スキップビーの敦賀蓮）とかいう具合に：ブログの方では「青空」の全出演者の声を書いて失笑を買いました。

実は、これを某所で書いたときにはこれ以上のお名前を出さなかったんですが、後日書いていた全作品の主要キャラを大公開。

それがコレです。

完全に一部の人にしかウケないネタだと思えますが……

全て敬称を省かせていただきました。予めお詫び申し上げます。

まず、「切り取られた青空」（いを含む）から……

これはすべてのキャラに声優さんが付いているので、全部出せます。

板倉加奈子ー川澄綾子

板倉修司ー森久保祥太郎

板倉陸ー川上とも子

板倉瞳ー折笠富美子

綿貫亮平ー小西克幸

設楽香織ー皆口裕子

設楽詩織ー篠原恵美

Tomさんー鳥海浩輔

うららさんー皆川純子

（堀木）俊樹ー三木眞一郎

「遠い旋律」

三輪さくらー久川綾

坪内高広ー山口勝平

松野芳治ー小西克幸

（野江恵実ーリア友）

「満月に焦がれて」

木村洋介ー置鮎龍太郎

木村小百合ー

桜木弘毅ー関俊彦

桜木圭子ー冬馬由美

木村乃笑留ー井上麻里奈

桜木周人ー中村悠一

「パラレル」

倉本（飯塚）夏海ーチェ・ジウ

結城龍太郎ー保志総一郎

武田康文ー佐々木望

（中谷小夜子ーリア友）

飯塚雅彦ー石塚英彦

結城志穂ー中原麻衣

「ハムケーオジッ ハムケ イッソ」

配役なし

「my precious」「precious dream」（

「パラレル」のメンバーは割愛）

梁原健史ー小野大輔

結城総一郎ー堀内賢雄

妙子ー（声は確かに聞こえてるんですが、どなたかお名前分らず）

「Future」（これも前作のメンバーは割愛）

飯塚未来ー渡辺美佐

飯塚明日香ーペ・ドウナ

結城秀一郎ー各父親と同じ声で

ジェラールー大塚明夫

「赤い涙」

根本昴ー田中真弓

笹川樹ー日高のり子

笹川京介ー寺田農

安田一成ー神奈延年

「交響楽」「ボクのプレシヤスブルー」（「遠い旋律」メンバーは

割愛)

笹本（坪内）久美子―三石琴乃

笹本智也―櫻井孝宏

笹本純輝―山口勝平

松野治人―小林由美子

松野楓―釘宮理恵

「バニシング・ポイント」

寺内衛―安元洋貴

名村博美―根谷美智子

名村順子―大原さやか

曳津信輔―遊佐浩二

北村冴子―キョン・ミリ

「道の先には……」

宮本美久―宮田幸季

鮎川幸太郎―置鮎龍太郎

マッシュ・カール―杉田智和

（エリーサ・C・L・ガッシュタルト）―水樹奈々

谷山薫―森永理加

皆様のイメージを崩す配役だったらごめんなさい。しかし、書きながら自分で呆けるほど、すごい人数の声優さんが出てきて自分で笑ってしまいました。

この一年で劇的に変わったことー執筆スタイル

私の書き方がここ一年前からがらっと変わりました。

それは、ダイレクトアタックを止めたこと。

一年前に「ポメラ」を買うまでの私は、ダイレクトアタックーブログやポータルサイトに直接入力ーしていました。

なぜかと言うと、長時間筆記用具を持ちたくないからです。たすくは左利きを子供の頃に矯正され、右手で筆記用具を持ちます。でも、んな右手はすぐに疲れて攣ってくるんです。

ただ、パソコンのキーボードも、右を多用するようにできていると言えそうなんですが、疲労度は手書きの比ではありません。

一応、不特定多数の方に見ていただくのだし……ワードで下原なんてことも考えましたが、結局Webで載せるときに絶対に変わるの
で、結局一緒じゃないかと思ってたんです。

最近がここが初稿（サイトは同時進行です）というものも増えましたが、大体は別ポータルからの移行^{トランス}

たかが、ブログ（当時）やポータルからここに移動させるだけの作業なのに、原稿が伸びる伸びる……まるでトルコアイスのごとくに伸びるんです。

（コピペを使えばいいのに、パソ鶏頭の私は、それを習得するのにかなり時間を食ってしまっていました）

ただ、それをする、結局一から打つので誤植が山と積まれることになったりします。

某所では、ある作品に「折角素晴らしいのに勿体ないから」と、あまたの誤植を一覧表でいただきました。

現在はポメラで執筆。これは、パソほどかさばらないので、電車で実家を往復するときにと買いました。最近では、仕事の休憩時間にも打っていますが。こちらにはマイクロSDカードでコピペします。その際に、誤植と文字と表現ブレをチェックしつつUPします。

ただ、サブタイトルはこの場でつけます。理由はポメラちゃんが入力順にかかわらず、五十音順でソートして記事を並べてしまうからです。タイトル＋サブタイトルでも良いんですが、長いタイトルだと字数オーバーになりそうで、タイトル＋通し番号で入れているんです。

そのサブタイをつけ忘れて、投稿ボタンを押すこと数知れず……原稿は全部消えちゃいますよね。一応またポメラちゃんから呼び出せば済むことなんですが、修正箇所が多いときにわりとやっちゃうんですよ。

「ああ、またこんだけ手直しせにゃ……」
と思うと正直凹んでしまいます。

それでも、誤植は続くよどこまでもうっという、粗忽者ですんで、ポメラ後の作品をそろそろ見直したいなあとは思ってはいるのですが。

それをする、また、トルコアイス捏ねちゃうかなあと思う、今日この頃です。

サブーいタイトルもあつたりしますが……

皆さん、連載作品にサブタイトルはおつけでしうか。

再開第一作、「切り取られた青空」をブログで書いていた時、ご丁寧全部一話ずつサブタイトルを頑張つてつけたんですよ。全31話全て……

そしたら、面倒臭くなつて、「切り取られた青空ーいとー」「遠い旋律」「満月に焦がれて」は最初サブタイなしで書いていました。

しかし、ポータルにトランスするとき、字数制限が厳しいかつたり、ここはサブタイトルがないと入力できませんし。で、「遠い旋律」は数字で入れてみたんです。でも、数字は味気ないなど。

そういうわけで、「いと」からはトランスしがてらサブタイトルを冠し、「満月に焦がれて」「遠い旋律」も後日サブタイトルを付けました。

「パラレル」では長い話なんで、対タイトルなんてものまで作つて遊んでしまいました。

例えば、

「R」からの解放↓「R」への回帰・同じではない未来↓同じではなかった未来・愛してる?↓それでも…愛してる等。

でも、このサブタイトルが曲者で、ネタバレしないように、でも内容を醸し出す様について考えると名前以上に難しい。

「交響楽」「赤ちゃんパニック」など、最初サブタイトルが中々決

まらず、とりあえず数字で揚げたものもありましたが、「赤ちゃんパニック」の時にびっくり、サブタイが決まるまで鳴かず飛ばずだったアクセス数が、（それでも人気の方にすれば微々たる量ですけど）倍加したんです。

数字だけのタイトルですごいアクセス数を稼いでらっしゃる方もたくさんおいですが、凡人はやれることをやっときましようと言うことで、今日もサブタイに命を懸けるたすくなのでした。（ただオタクなだけという見方ももちろんありますけどね）

中には、書いてしまうと内容ちゃんばれってサブタイで躊躇することもあるんですが、完結して改めてそれを見ると、それだけで物語の流れが見えて、なかなか感無量でもあります。

で、私が選ぶベストサブタイトルトップ3……なんだろう？

オトウサマ（Future）

融け出した万年雪（my precious）

山笑う（再び桜花笑う季）ですかね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9245x/>

神山 備の取扱説明書

2011年10月26日14時57分発行